日野の歴史と民俗　１３０（詳細版）

勝五郎生まれ変わり物語と藤蔵の墓所

江戸時代の後半の文政５年（１８２２）の秋のこと、中野村（八王子市東中野）の勝五郎という少年が、自分の前世は程久保村（日野市程久保）の藤蔵だったと語り、大評判となりました。勝五郎は、訪れたことがないはずの程久保村の藤蔵の家のことをよく知っていて、勝五郎の語ることは、ひとつひとつ事実と合致し、人々を驚かせました。生まれ変わりの少年は、「ほどくぼ小僧」とあだ名され、勝五郎の家には、ひと目生まれ変わりの少年を見ようという人が、たくさんやってきたということです。

郷土資料館では、平成 18 年秋より、市民参加の「勝五郎生まれ変わり物語探求調査団」を結成し、地元に伝わるこの不思議な物語の、調査・研究に取り組んできました。平成 20 年秋には特別展を開催し、たくさんの市民の方にこの物語を知っていただくことが出来ました。また、平成 22 年２月４日は、生まれ変わる前の藤蔵の没後 200 年にあたり、これを記念して高幡不動尊にある墓所に、案内板を設置しました。

程久保村の須崎家に生まれた藤蔵は、６歳になった文化７年２月４日（西暦では１８１０年３月８日）、疱瘡（天然痘）のため亡くなりました。天然痘は、ジェンナーの種痘の発見によって、現在では人類が克服した伝染病ですが、江戸時代には、死亡原因の第一位を占める恐ろしい病気でした。特に幼い子どもの場合には、なかなか回復することが難しかったのです。

後に勝五郎の語ったことによれば、亡くなった藤蔵の魂は、須崎家の山の墓地に葬られる時に、棺桶から抜け出し、家に帰ったといいます。泣いているお母さんに声をかけたのですが気づいてもらえず、そのまま黒衣に白い鬚を生やした不思議な老人に伴われてあの世に行ったというのです。お彼岸やお盆の折には、家に帰ってきたとも語っていますが、やがて老人に誘われて、中野村の小谷田家に生まれ変わったということです。藤蔵が亡くなってから６年目にあたる、文化１２年（１８１５）１０月１０日のことでした。

生まれ変わりの真偽については、確めようがありませんが、藤蔵の実家須崎家は今も継承されており（現在は小宮姓）、位牌・過去帳・墓石などから、藤蔵が実在したことは確かです。また、勝五郎は、明治２年（１８６９）まで生きており、自分の祖父が勝五郎と一緒に農作業をしたことがあるなどのエピソードを語ってくれる人も、地元にはまだいるのです。また、勝五郎の祖父の実家にあたる小谷田家は、今も当時と同じ場所にあり、生家の近くですから、勝五郎もしばしば訪れたことでしょう。

勝五郎の物語は、池田（松平）冠山・平田篤胤など当時の多くの文人や学者が記録し、明治になってからは小泉八雲も作品に取り上げています。さらに、現在に至るまで様々な文学作品に取り上げられていますが、藤蔵が亡くなることで、この不思議な物語は始まりまったわけです。

もとは程久保の山にあった藤蔵の墓は、開発により昭和４０年代後半に高幡不動尊墓地に移転しました。高幡不動尊のご好意で案内板を設置することが出来たおかげで、墓地を見学に訪れる方も多くなりました。このような生まれ変わりの出来事がなければ、わずか６歳で亡くなった少年のことなど、とっくに忘れられていたことでしょう。

４年後の２０１５年には、勝五郎の生誕２００年を迎えますが、このような２００年という節目の時に、市民参加の調査団を立ち上げることが出来たのも、不思議なめぐりあわせです。高幡不動尊に立ち寄られた折には、藤蔵の墓所を訪ね、往時を偲んでいただければと思います。

（郷土資料館　北村澄江）

＊藤蔵の墓所では、ミニリーレットを配布しています。
＊特別展図録『ほどくぼ小僧　勝五郎生まれ変わり物語』
　絵本『ほどくぼ小僧　生まれ変わりの勝五郎』
　DVD『ほどくぼ小僧　勝五郎生まれ変わり物語』（１１分）
　各５００円にて発売中。お問合せは日野市郷土資料館（℡０４２―５９２－０９８１）へ

※　本稿のダイジェスト版を、『広報ひの』平成２３年３月１５日号に掲載しています。